

京都生きもの 100 選の選定について

1 京都生きもの 100 選

「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～」のリーディング事業であって、市民等から寄せられた四季折々に見られる植物、昆虫、動物等、身近な自然に関する情報を、平成 27 年度中に「京都生きもの 100 選（以下「100 選」という。）」として取りまとめるもの。

2 100 選の選定スケジュール

平成 26 年度から着手した 100 選の全体スケジュールは、図のとおり。

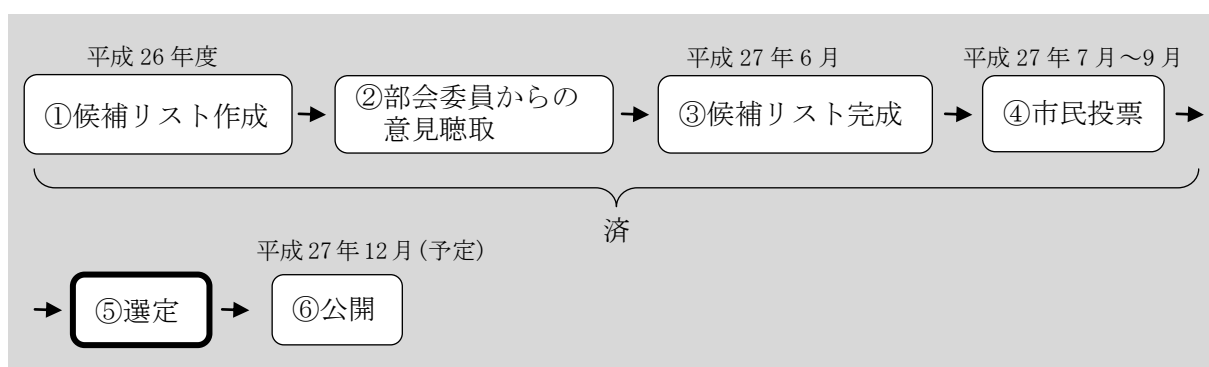


図 選定スケジュール

(1) 100 選候補の選定（平成 27 年 6 月）

昨年に実施した自然環境現況基礎調査により、本市に生息する生きものや生育環境保全の取組などに関する情報収集を行い、その情報を当部会委員の皆様から意見を聴取したうえで、3つの区分※に分けた 197 件を選定候補としてリストアップした。

※ 区分

- ① 京都市の生物多様性の保全上重要な生きものやその生息・生育場所（111 件）
（例）深泥池
- ② 京都市内の生物多様性保全に関する市民や事業者の取組（16 件）
（例）フタバアオイの保全活動
- ③ 京都市の観光や伝統文化を支える生物多様性の情報（70 件）
（例）おけら詣りのオケラ

別紙 1 京都生きもの 100 選候補リスト選定の考え方

(2) 市民等による投票の実施

197件の100選候補の中から、市民の皆様にとって身近に感じる自然や大切に残したいと思う生きもの等について意見を募るため、以下のとおり、市民投票を実施した。

〔投票期間〕

平成27年7月1日午前9時～9月30日午後5時

〔投票方法〕

(ア) 京都市の生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム」を活用したインターネットによる投票

(イ) 市役所（環境管理課）及び各区役所・支所のエコまちステーションの窓口での投票

〔投票のルール等〕

(ア) 無記名投票

(イ) 投票は、期間中、一人1回

(ウ) 一人につき、最大10点まで投票可能

(エ) 同じ候補に複数票を投じることはできない

(3) 投票結果

京都市内で四季折々に見られる生きもの等、身近な自然に関する情報197件を100選候補としてリストアップし、選定候補の中から市民投票を実施した結果、以下のとおり多くの市民の皆様にご参加いただいた。

(ア) 投票人数 2,632人（うち窓口での投票者85人）

(イ) 総投票数 24,754票

3 投票結果を踏まえた100選候補の選定について（案）

市民の皆様にとって身近に感じる自然や大切に残したいと思う生きもの等について投票していただいた結果を、最大限尊重する趣旨から、以下のとおり選定したいと考えている。

(1) 総投票数の9割が投じられた上位72件の候補（別紙2中「○」のもの）については、市民投票枠からの選出として、100選に選定する。

↓

(2) 当部会において、73位から100位までを優先的な選定候補（別紙2中「△」のもの）としつつ、それ以降のものも含めて、専門家の立場から100選として選出すべきものを審議いただき、部会枠を選出する。

↓

(3) (1)の「市民投票枠」及び(2)の「部会枠」を合わせた概ね100件を、最終的な100選として選定する。

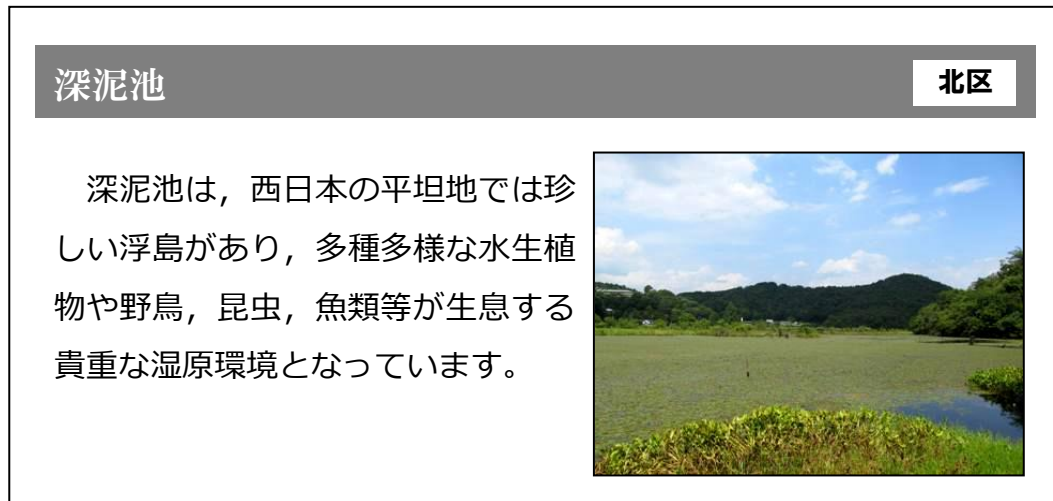
別紙2 京都生きもの100選 選定候補一覧表

4 今後の予定について

100 選の選定により，より多くの市民等の皆様にとって，生物多様性に触れる機会が増えるよう，更には 100 選の保全活動への参加につながるよう，以下の取組を進めていく。

- (1) 生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム」及び「京都市情報館」に掲載する。

〔ホームページでの公開イメージ〕



- (2) 選定された 100 選を，順次「京の生きもの発見ガイド※」に掲載するほか，自然観察会「親子生きもの探偵団」等で活用する。

〔※ 子どもたちが本市の豊かな自然に触れ，様々な生きものを知り，親しむことを目的として，市内で見られる生きものを紹介する冊子（毎年度発行予定）〕

- (3) 関係団体等との連携により，民間広報紙等への掲載やパネル展示など，様々な機会を捉えて市民への周知に努める。

京都生きもの 100 選候補リスト選定の考え方

次の条件に合致するもののうち、①現在京都市内で生息が確認されていない動植物、②外来種、を除く全てを京都生きもの 100 選の候補として選定した。

1 法令指定等関係

- (1) 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）
 - ・国天然記念物（常照皇寺の九重ザクラ、深泥池生物群集、オオサンショウウオなど）
- (2) 京都府文化財保護条例（昭和 56 年京都府条例第 27 条）
 - ・京都府指定天然記念物（旧府知事公舎のエノキなど）
 - ・京都府登録天然記念物（ハッチョウトンボ、ギフチョウなど）
- (3) 京都府環境を守り育てる条例（平成 7 年京都府条例第 33 号）
 - ・歴史的な自然環境保全地域（花背保全地域「大悲山」など）
 - ・京都府自然環境保全地域（片波川源流域）
- (4) 京都市文化財保護条例（昭和 56 年京都市条例第 20 号）
 - ・京都市指定天然記念物（総見院のワビスケ、大徳寺のイブキなど）
 - ・京都市登録天然記念物（花脊のダイスギ、御香宮神社のソテツなど）
- (5) 京都市緑化の推進及び緑の保全に関する条例（平成 7 年京都市条例第 43 号）
 - ・保存樹

2 その他

- (1) 未来へ届け！京都の自然（平成 12 年発行）
掲載されている項目全て（第六章「京の滝と地質」を除く。）
- (2) 京都市生物多様性プラン
本編に掲載されている特徴的な場所や取組等
- (3) 京の伝統野菜
〔定義〕明治以前よりあった品目で、京都府全域で栽培されていたもの（きのこを除く、筍を含む）

京都生きもの100選 選定候補一覧表

別紙2

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
1	深泥池	○	深泥池は、西日本の平坦地では珍しい浮島があり、多種多様な水生植物や野鳥、昆虫、魚類等が生息する貴重な湿原環境となっています。(北区)	1,122	①
2	平安神宮神苑の水生物(イチモンジタナゴ等)	○	疏水を通して琵琶湖から水を引いていた平安神宮の池は、琵琶湖固有の希少な魚類や貝類が生息する貴重な環境となっています。(左京区)	1,057	①
3	小畑川の桜並木	○	小畑川の岸边にはソメイヨシノやシダレザクラ等約500本のサクラが植えられています。春には桜祭りが行われ、人々に親しまれています。(西京区)	879	①
4	桂川	○	桂川にはオオサンショウウオやオオタカ、カヤネズミ等のほか、タコノアシ等の湿地性植物等、貴重な動植物が多く生息・生育しています。	851	①
5	大田神社(大田ノ沢)のカキツバタ	○	大田ノ沢に群生するカキツバタです。平安朝のころから名所として知られ、見頃となる5月には花の紫と葉の緑の美しい姿を望むことができます。(北区)	814	①
6	鞍馬山	○	鞍馬山は古くから山岳信仰の地として守られてきました。スギやヒノキの巨木が数多く生育しており、牛若丸の伝説の残る「木の根道」もあります。(左京区)	800	①
7	オオサンショウウオ	○	オオサンショウウオは世界最大の両生類で日本固有種です。本市では賀茂川や上桂川、清滝川、桂川の久我橋下流等に生息しています。	795	①
8	船岡山の森(照葉樹林)	○	船岡山にはアラカシやシイ等の照葉樹を中心にした貴重な森が残されています。また都市の中にあつて人々の憩いの場として親しまれています。(北区)	772	①
9	花脊の三本杉	○	三本杉は峰定寺にあるスギで、1つの根元から3本の幹がまっすぐ力強く空へと伸びています。人々からの信仰が厚く、大事に守られています。(左京区)	671	①
9	京都御苑	○	京都御苑には樹林が広がっており、御所と一体となった静かな環境は人々の散策や休養、自然観察の場として親しまれています。(上京区)	671	③
11	城南宮の樹林	○	平安時代に創建された城南宮にはクスノキやシイ等の大木をはじめ、100種類以上の草木が植えられており、参拝者や地元の人々に親しまれています。(伏見区)	657	①
12	京都府立植物園	○	京都府立植物園には、約1万2000種の植物とあわせて、多くの昆虫や野鳥も生息しており、市民のいこいの場や学習の場となっています。(左京区)	572	③
13	鴨川	○	鴨川には多様な動植物が生息しており、野鳥の調査や保護、清掃活動、アユののぼる魚道づくり等の取組が行われています。	476	③
14	カヤネズミの保護活動(桂川)	○	桂川では、カヤネズミの保護と生息地の保全を目的とした調査や、自然環境の保全や生態系への理解を深めるための普及・啓発活動等が行われています。	474	②
15	チマキザサ再生プロジェクト	○	祇園祭の厄除けちまきや和菓子等に利用されるチマキザサを保全するため、生育地の草刈りや移植、里親活動等が市民や活動団体により行われています。	434	②
16	大原の里の田園環境	○	大原の里山には人の生活と密接に関わることで育まれた貴重な里山・田園環境が残っており、オオムラサキの保護活動が行われています。(左京区)	432	③
17	越畑の里の棚田と里山	○	越畑には山の斜面を利用した棚田が広がり、また人々の暮らしに深く結びついた里山が残っており、昔ながらの山村の自然と景観をみることができます。(右京区)	431	③

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
18	ウェスティン都ホテルの裏山	○	ウェスティン都ホテルの裏山には散策コースが設けられ、市街地の近くにありながらバードウォッチングや森林浴等を楽しむことができます。(東山区)	426	③
19	フタバアオイの保全活動	○	葵祭等で用いられるフタバアオイは、近年、その生育地が少なくなっています。市民や活動団体等がフタバアオイの保全・再生活動に取り組んでいます。	423	②
20	愛宕山の森	○	愛宕山にはスギやヒノキ、アカマツ、コナラ等の森が広がり、秋には紅葉を楽しむことができます。またシキミの枝は火除けのお守りとされています。(右京区)	417	③
21	小塩山のカタクリとギフチョウの保護活動	○	小塩山にはカタクリとギフチョウが生育し、4月中旬には多くの市民が訪れます。その環境を保全するため、森林間伐や獣害対策の活動が行われています。(西京区)	383	②
22	下鴨神社社の森	○	下鴨神社の境内に広がる糺の森には山城原野の植生が今も残っています。多様な樹木が生育し、ホタルも見られ、身近な自然として親しまれています。(左京区)	356	③
23	京都市動物園の取組	○	京都市動物園では絶滅のおそれのある生物の保全や野生鳥獣の救護、環境教育等に取り組んでいます。(左京区)	352	②
23	京都駅ビルの取組	○	京都駅ビルでは、雨水を利用した水生植物等を栽培するプランターや日差しを遮る屋台プランター等を設置し、自然との触れ合いの場を提供しています。(下京区)	352	②
23	京都水族館の取組	○	京都水族館では丹波の山々から海にいたる生態系のつながりを表現した展示や、環境教育、絶滅のおそれがある生きものの保護・繁殖に取り組んでいます。(下京区)	352	②
23	洛西ニュータウンの街路樹	○	洛西ニュータウンにはケヤキやトチノキ等の街路樹が植栽され、市民に親しまれています。(西京区)	352	②
27	比叡山の森と野鳥	○	古くから信仰の場となっている比叡山にはブナやモミ等の自然林が残されており、鳥類や昆虫等、多様な動植物をみることができます。(左京区)	348	③
28	大原野神社のフジバカマ保全活動	○	大原野神社では境内で絶滅が心配されているフジバカマの原種を保存しています。フジバカマを始めとする花の蜜を吸いにアサギマダラ等が飛来します。(西京区)	292	②
29	梅小路公園いのちの森	○	梅小路公園いのちの森は、整備後に自然に生えてきた植物や、草花に集まった昆虫や野鳥等によって、多様な動植物が生息・生育する環境となっています。(下京区)	283	①
30	洛西の竹林	○	大枝を中心とした洛西一帯の竹林です。たけのこや富有柿等が特産で、古くから人々の暮らしと深く結びついています。(西京区)	271	③
31	青蓮院のクスノキ	○	樹齢600年といわれる5本のクスノキで、守り神のような風格を漂わせる姿は、神宮道の眺めを彩る要素となっています。(東山区)	247	①
31	鞍馬の火祭	○	鞍馬の火祭は篝火(かがりび)の中を氏子が松明を持って練り歩く祭です。松明に使われるコバノミツバツツジは、里山の荒廃によって個体数が減少しています。(左京区)	247	③
33	嵯峨野の景観	○	嵯峨野は京都観光の名所であり、また多くの動植物が生息しており、花や紅葉、虫の鳴き声等、四季を通して自然を楽しむことができます。(右京区)	240	③
34	旧千本通(伏見区横大路)のエノキ	○	旧千本通はエノキが多いことからかつてはエノキ街道とも呼ばれており、市内でも有数のエノキの巨木が生育しています。(伏見区)	239	①
35	蹴上浄水場のツツジ	○	蹴上浄水場では春になると約4,000本の色とりどりのツツジが咲き誇り、その景観は春の風物詩となっています。	233	③
36	半木の道のシダレザクラ	○	半木の道は鴨川沿いに植えられたシダレザクラの並木道です。春には桜がトンネルのように連なり鴨川を彩る風景の1つとして親しまれています。(左京区)	207	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
37	方広寺大仏殿跡緑地のケヤキ	○	方広寺大仏殿跡緑地には、樹齢約400年といわれる大きなケヤキがあります。(東山区)	206	①
38	興正寺のツツジ	○	興正寺から西本願寺までの塀沿いに続くツツジで、4月下旬から5月上旬にかけて白や赤紫、薄紫等色とりどりに咲き乱れ、歩道を美しく彩ります。(下京区)	200	③
39	本願寺水道の調査と環境保全活動	○	琵琶湖疏水と繋がる本願寺水道では、多様な動植物が生息する豊かな環境を街中に取り戻すための取組が行われています。(下京区)	192	②
40	おけら詣りのオケラ	○	おけら詣りでは八坂神社でおけら火をいただき、正月のお雑煮をつくって無病息災を願います。オケラはキク科多年草で、絶滅危惧種に指定されています。	191	③
40	哲学の道	○	哲学の道の桜並木は、サクラの名所として知られています。またゲンジボタルの生息環境を守る市民の取組みが行われています。(左京区)	191	③
42	西本願寺のイチョウ	○	樹齢330年以上といわれるイチョウで、人々の信仰の中で親しまれてきた古木です。また古来より火災時に類焼を防ぐ役割も果たしてきました。(下京区)	182	①
43	西山の自然保護活動	○	西山では自然観察会やチョウの森づくり等の自然保護活動、下草刈り等の里山保全活動、モニタリング等の活動が行われています。(西京区)	181	②
44	桂うり	○	桂うりの果皮は薄く、果肉は厚くてち密です。完熟するとメロンのような香りがします。	174	③
45	フジバカマの保全活動	○	秋の七草のひとつであるフジバカマを保全するため、市民や活動団体が連携し、保全活動に取り組んでいます。	168	②
46	上賀茂神社の森	○	信仰の地である上賀茂神社では山城原野の生態系が守られてきました。巨木と清流、社殿の調和が美しい自然・文化遺産です。(北区)	158	③
47	ゲンジボタル	○	清滝川や哲学の道、琵琶湖疏水、西芳寺川等で見られます。毎年5月下旬から6月にかけて成虫があらわれ、淡い光を放ちます。	147	①
48	大文字送り火の保存活動	○	大文字山では伝統文化に親しみ、次世代へ伝えていくために、大文字送り火の実施と保存、伝承の取組が行われています。(左京区)	132	②
49	旧府知事公舎のエノキ	○	樹高約26mのエノキで、枝葉を繁らせ、空洞のない立派な主幹が堂々と上部に伸びており、見栄えのする大木です。(上京区)	128	①
49	東本願寺のスイレン	○	東本願寺の掘割に咲くスイレンは6月上旬から7月下旬に白い花をつけます。午前中に訪れると朝の光に包まれ美しく咲く姿を鑑賞することができます。(下京区)	128	③
51	宇治川観月橋下流のツバメの集団飛来地	○	向島観月橋下流左岸の大規模なヨシ原はツバメの集団飛来地となっています。繁殖のために南方から渡ってきた数万羽のツバメが集団でねぐらをとりまわります。(伏見区)	123	①
52	八丁平	○	八丁平は2万年以上の歴史を持つといわれている高層湿原です。優れた景観が広がり、日本一小さなハッチョウトンボも生息しています。(左京区)	120	①
53	賀茂なす	○	賀茂なすは丸い形でずっしり重く、ガク(へた)は三角形になるという特徴があります。様々な調理法で利用されますが、田楽や揚げ出しに適しています。	117	③
54	加茂街道の並木	○	加茂街道にはサクラやケヤキ等が植えられており、街道を覆うように大きく茂った並木は四季折々の美しい景色を楽しませてくれます。(北区)	114	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
55	京たけのこ	○	たけのこが中国から初めて持ち込まれたのは京都であるといわれています。生産者の努力でおいしいたけのこが育ち、美しい竹林の景観が保たれています。	108	③
56	貴船の相生大杉	○	貴船神社の沿道にそびえ立つ2本の巨大なスギです。2本の幹が寄り添う姿が夫婦に例えられ、相生(相老)の杉と呼ばれています。(左京区)	105	①
57	永観堂の紅葉と動植物	○	永観堂は紅葉の名所として有名で、境内には樹齢500年といわれるムクノキ等の巨木も多く、森や水辺に多様な動植物が生息しています。(左京区)	98	③
58	北野天満宮のウメ	○	北野天満宮には約2,000本のウメが植えられており、訪れるたびに違った花を楽しむことができます。京都随一の梅の名所として知られています。(上京区)	96	③
59	向島の宇治川南岸域	○	伏見区向島の宇治川南岸域は野鳥の越冬地や渡りの中継地、生息地として重要です。また巨椋池を干拓した農地も草地性の野鳥の生息地となっています。(伏見区)	95	①
60	祇園白川南通の桜並木	○	祇園白川の川沿いにはソメイヨシノやシダレザクラ、ヤナギ等が植えられています。昼も夜も京都らしい風情に彩られた景色を楽しませてくれます。(東山区)	94	①
61	平野神社のサクラ	○	平野神社は京都を代表するサクラの名所として親しまれています。品種が多く、3月中旬から4月下旬までサクラを楽しむことができます。(北区)	92	③
62	大原のしそ	○	大原のしそは鮮やかな紫色で香りがすばらしく、これは大原の寒暖の差が大きいといわれています。このしそはしば漬けの原料として有名です。(左京区)	91	③
63	稲荷山の森(照葉樹林)	○	稲荷山は古くから信仰の場とされ手加えられておらず、シイやカシ等の照葉樹林が残っています。山城原野の姿を知ることができる貴重な環境です。(伏見区)	86	③
64	本能寺のイチョウ	○	樹高約18m、幹周約4mのイチョウです。火事の時に木の回りに集まった人々を救ったと伝えられており、「火伏せのイチョウ」とも呼ばれています。(中京区)	82	①
64	九条ねぎ	○	九条ねぎは古くから南区の九条周辺で栽培されていたねぎで、青ねぎの代表品種です。鍋物やすきやき、ぬたや和え物等様々な料理に使われます。	82	③
66	堀川通のイチョウ並木	○	紫明通から今出川通にかけて、イチョウの大木が続いており、四季折々の景色の美しさから人々に親しまれています。(上京区)	75	①
67	賀茂別雷神社末社藤木社のクスノキ	○	小さな社を覆うような樹高約16mのクスノキです。周囲の景観にとけ込んでおり、伸びやかに育った大樹は地域の人に大切にされています。(北区)	67	①
67	北野天満宮御旅所のクロガネモチ	○	北野天満宮御旅所の南西にあるクロガネモチは通りからもよく見え、手厚く保護された木は青々とした葉をつけています。(中京区)	67	①
69	ボンボン山の里山環境	○	ボンボン山は薪や炭を得るために古くから利用されてきた山です。大原野森林公園内では動植物の調査やカタクリ群落の保全等が行われています。(西京区)	66	①
70	山村都市交流の森	○	山村都市交流の森は山村文化と豊かな自然に触れることができる森林公園です。自然観察やハイキング、木工等を楽しむことができます。(左京区)	63	①
71	宝が池公園	○	宝が池公園ではミヤコツツジ等の植物や里山の自然をみることができます。また市民等が協力してナラ枯れや外来植物の防除等に取り組んでいます。(左京区)	61	①
71	小倉山再生プロジェクト	○	小倉山の景観を代表するアカマツ林を再生させるため、産官民の連携により病害虫に強い抵抗性アカマツの植樹が行われています。(右京区)	61	②

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
73	音羽山のミドリセンチコガネ	△	ミドリセンチコガネは光沢を帯びた美しい甲虫で、ウシやイノシシ等哺乳類の糞を食べます。京都府では音羽山にのみ生息しています。(山科区)	57	①
74	常照皇寺のサクラ	△	常照皇寺には九重桜や、一重と八重が一枝に咲く「御車返しの桜」等サクラの名木があり、花の時期には多くの人でにぎわいます。(右京区)	56	①
75	葛籠尻の小町カヤ	△	葛籠尻や西浦にあるカヤは特に大きく、小町カヤと呼ばれています。種子からとれる油は食用や灯火、整髪油として人々の生活に役立ってきました。(山科区)	54	①
75	久我神社のクスノキ	△	久我神社のクスノキです。周辺が宅地化されるなか、久我の森の名残である神社の緑は貴重な存在です。(伏見区)	54	①
77	モリアオガエル	△	モリアオガエルは木の上でくらす珍しいカエルで、白い泡にくるまれた卵を池の上の木の枝等に生みます。	52	①
78	円山公園のサクラ	△	円山公園は本市で最も古い公園で、サクラの名所として知られています。特に園内の中央にあるイトザクラは「祇園枝垂れ桜」として有名です。(東山区)	49	①
79	北山杉	△	中川地区等に植林された北山杉は、樹齢300年を超える株もあります。自然環境を持続的に利用してきた人々の知恵と歴史を知ることができます。(北区)	47	①
80	元有済小学校のムクノキ	△	元有済小学校のムクノキは神木として大切に守られています。学校の建物もこのムクノキをよけて建てられています。(東山区)	46	①
81	龍谷大学(大宮学舎)のイチヨウ	△	このイチヨウは明治初期の開校時にはすでに大木として存在していました。通りからもよく目立ち、他の樹木とともに人々に安らぎを与えています。(下京区)	43	①
82	貴船神社のカツラ	△	貴船神社に生育しているカツラで、樹高39m、幹周約6m、樹冠幅20mの大木です。自然林に自生するカツラの大木として貴重です。(左京区)	37	①
82	吉田山(神楽岡)	△	吉田山は街中に残る貴重な緑地として、自然観察や市民の憩いの場となっています。また周辺住民が中心となり森林の再生に取り組んでいます。(左京区)	37	①
84	花背保全地域(大悲山)	△	大悲山は山岳信仰の地として守られてきました。スギやモミの大木等、豊かな自然が残っており、カモシカや野鳥等の生息地となっています。(左京区)	36	①
84	清滝川	△	清滝川は美しい渓谷が続く紅葉の名所として有名です。またゲンジボタルやオオサンショウウオ、カジカガエル等の水辺の生物が多く生息しています。(右京区)	36	①
84	広沢池	△	広沢池は人工のため池で、古くから重要な水源として農業を支えています。またマガモやケリ等の鳥類やトンボ類等が多く生息しています。(右京区)	36	①
87	清水寺のサクラ、紅葉	△	東山を背景に建立された清水寺では、ソメイヨシノやカエデ類など、四季折々に変化する美しい自然を満喫することができます。(東山区)	32	③
87	聖護院だいこん	△	聖護院だいこんは丸い形の大根です。毎年12月の千本釈迦堂の「大根焚き」では、梵字を書いた聖護院だいこんを大鍋で炊いて参拝者に振る舞います。	32	③
89	嵐山の景観	△	嵐山はサクラと紅葉の名所として有名です。桂川の南岸一帯にはニホンザル等の動物も生息しており、美しく豊かな自然環境となっています。(右京区)	30	③
90	大文字山・法然院の森	△	お盆の送り火の舞台である大文字山一帯には、多様な動植物が生息する豊かな自然環境が広がっています。(左京区)	29	③

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
91	松尾大社周辺の森 (照葉樹林)	△	松尾大社の森には貴重な照葉樹林が残っています。南方系のつる植物であるカギカズラは、気候条件からこの地域が分布の北限と考えられています。(西京区)	28	①
92	鞍馬の木の芽煮	△	木の芽煮は山椒の葉と実に昆布を加え、しょう油で長時間煮て作ったつくだ煮のことです。左京区鞍馬で家庭の保存食として作られてきました。(左京区)	27	③
93	花脊の天然伏条台杉群	△	花脊の鍋谷山一帯に生育するアシウスギの群落で、伏条台杉は根際近くから何本も枝が生える巨大な杉です。樹齢1000年を超える株もあります。(左京区)	26	①
93	北山の哺乳類	△	北山には多様な木々や昆虫、魚類等のすむ豊かな自然が残っており、それらを餌とするツキノワグマやタヌキ、キツネ等の哺乳類が生息しています。	26	①
93	もぎなす	△	もぎなすは、極早生(ごくわせ(普通の作物より早く収穫できる品種のこと))で、現在は左京区一乗寺で栽培されています。ごま和えやからし漬、天ぷら、焼きなす、梔子等に使われます。	26	③
96	大沢池	△	大沢池は古くからある人工の池で堤にはカエデ類やサクラ等が植えられています。また周囲にはツバメやノビタキ、アオバズク等の野鳥が生息しています。(右京区)	25	①
96	すぐき菜	△	すぐき菜は古くから北区上賀茂等で栽培されてきました。すぐき菜を使ったすぐき漬は酸味が特徴で、漬け込みと発酵を組み合わせで作られています。	25	③
96	鷹峯とうがらし	△	鷹峯とうがらしは辛味がなく肉厚で皮が薄いことが特徴です。北区鷹峯で栽培され、素焼きや天ぷら、炒め物、煮物に使われます。	25	③
96	山科なす	△	山科なすは、山科区を中心に栽培されてきました。糠漬けや京都の家庭料理(おぼんざい)のひとつであるにしとなすの炊き合わせ等に適しています。	25	③
100	東福寺の紅葉	△	東福寺の洗玉澗と呼ばれる谷には約2,000本のカエデ類が広がっています。秋には紅葉の絶景を楽しむことができます。(東山区)	24	③
100	鹿ヶ谷かぼちゃ	△	鹿ヶ谷かぼちゃの名前の由来となった鹿ヶ谷にある安楽寺では、毎年7月に鹿ヶ谷かぼちゃを炊いて参拝者に振る舞う伝統行事が行われます。	24	③
102	本隆寺のタカオカエデ		タカオカエデはイロハモミジの別名で、樹高約10m、幹周約2mの太木です。秋には名木の多い本隆寺の境内のなかでもひととき美しく紅葉します。(上京区)	23	①
102	大原のシャクナゲ尾根		大原のシャクナゲ尾根にはたくさんのホンシャクナゲが生育しています。尾根からの景色も美しく、登山の場としても人々に親しまれています。(左京区)	23	①
104	岩倉の田園環境		岩倉は古くから農林業が盛んで、今も水田や里山の環境が受け継がれており、ギフチョウ等様々な昆虫を見ることができます。(左京区)	22	③
104	貴船の動植物		貴船川に沿った貴船集落一帯には、カツラの大木やキブネダイオウ等の植物やスギタニルリシジミやホタル等、珍しい動植物が生息・生育しています。(左京区)	22	③
106	月輪寺のホンシャクナゲ		樹齢500年といわれるシャクナゲは、株立ちしており、樹高が約4m、幹周が最大で46cm、樹冠幅が最大10mと大きな株です。(右京区)	21	①
106	片波川源流域・伏条台杉群生地		片波川の源流は京都府内でも数少ない自然度の高い地域で、ホンシャクナゲと針葉樹からなる群落や伏条台杉等があり、独特の景観を形成しています。(左京区、右京区)	21	①
106	双ヶ岡		双ヶ岡は3つの峰が連なる丘陵地です。シイやアラカシ等の自然林が広がり、自然とふれあえる場所として親しまれています。(右京区)	21	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
106	山科疎水の景観		着工から100年以上が経つ疎水沿いは、春はサクラ、秋は紅葉に彩られます。(山科区)	21	③
106	壬生菜		壬生菜の名前は市内の地名に由来します。昔から京漬物の千枚漬けに添えられてきました。油揚げとの煮物や和え物、サラダ等に使われます。	21	③
111	西芳寺川		西芳寺川にはサワガニや魚類、希少なオトゲエラカゲロウ等の水生生物が多く生息しています。6月頃には上流部でゲンジボタルを見ることができます。(西京区)	20	①
111	高雄、槇尾、梅尾の紅葉		三尾と呼ばれるこの地域は紅葉の名所として有名です。アカマツ等の深い緑の間にカエデやモミジの紅葉が広がり、美しい色彩を望むことができます。(右京区)	20	③
111	保津峡の景観		保津峡は保津川の水の力で形作られた大峡谷です。大岩壁やそこに張り付くように自生しているユキヤナギやサツキツツジ等が見られます。(右京区)	20	③
111	桃山だいこん		桃山だいこんは、約300年の歴史を持つといわれています。現在は、伏見区向島で栽培されており、肉質が非常にしまっていて主にたくあんや漬物に使われます。	20	③
115	大徳寺のイブキ		樹齢約350年といわれるイブキで、地上約3mで5つの幹に分枝し各幹ともねじれながら斜上しており、イブキのなかでもまれに見る巨木です。(北区)	19	①
115	鹿苑寺(金閣寺)のイチイガシ		自然に生えてきたものと考えられている巨木で、板根(幹の支持のために幹の基部から張り出している根)がみられます。(北区)	19	①
115	花脊のダイスギ		花脊に点在する5本のダイスギの巨木です。日本海側のスギの特徴を持つ貴重なものとされています。(左京区)	19	①
115	金剛王院(一言寺)のヤマモモ		金剛王院の参道にある樹高約9m、幹周約3m、樹冠幅10mのヤマモモは、古木として周辺の人々に親しまれています。(伏見区)	19	①
115	桃山丘陵の森		桃山丘陵の広大な森にはショウナンボクの並木や名木・巨木が多く、野鳥を身近に見ることができる豊かな自然が残っています。(伏見区)	19	①
115	学校ビオトープの設置		学校に生きものの棲みかとなるビオトープを設置し、環境の大切さを実感できる場の創出を図っています。	19	②
115	雲ヶ畑		雲ヶ畑地域には豊かな山村環境が残っており、オオサンショウウオ等も生息しています。また市民団体等が森林作業体験や自然観察会等を行っています。(北区)	19	③
115	えびいも		えびいもは、サトイモの一種で腰をかがめたエビに似た形が名前の由来です。現在は伏見区竹田で栽培され、えびいもと棒だらの煮付けが有名です。	19	③
115	聖護院かぶ		聖護院かぶは京都の代表的な漬物である千枚漬けの原料として有名です。普通のかぶと比べて大きく、重いものは5kg近くにまでなります。	19	③
115	伏見とうがらし		伏見とうがらしは古くから伏見区を中心に栽培されてきました。最初は緑色ですが熟すと赤色になり、おいしいだけでなく、彩りも楽しめます。	19	③
115	みず菜		みず菜は江戸時代以前から京都を中心に栽培されてきたといわれています。煮物や漬物にしたり、小株のものは鍋物やサラダ等に使われます。	19	③
126	御香宮神社のソテツ		雌株と雄株のソテツの大木が生育しています。南方系の種であるソテツが四季を通じて繁茂する様子は本神社を象徴する景観となっています。(伏見区)	18	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
126	善峯寺の遊龍松と周辺の山里		小塩山や西山に囲まれた善峯寺とその周辺では、四季折々の花や紅葉、竹林や杉林等、美しい山里の景観を望むことができます。(西京区)	18	③
126	くわい		くわいは正月のお節に用いられる縁起物で、南区上鳥羽や伏見区竹田等で栽培されています。せんべいや松笠くわい、うま煮に使われます。	18	③
129	岩屋山志明院のホンシャクナゲ、岩峰植生		志明院から岩屋山に広がる自然植生で、ヒノキやゴヨウマツ、ホンシャクナゲ、ヒカゲツツジ等で構成された岩峰の特異な植生がみられます。(北区)	17	①
129	久多の大杉		樹高約40m、樹齢320年の大杉です。この大杉のある大杉神社では花笠踊りが行われており、地域の人々のくらしや文化と親密な関係にある大木です。(左京区)	17	①
129	鷲森神社のヤマザクラ		鷲森神社参道のヤマザクラの並木です。ヤマザクラやモミジが植えられた参道は、参拝者や地域の人に親しまれています。(左京区)	17	①
129	音羽前出町のソメイヨシノ		民家にあるサクラで、大切に保護されています。通りからもよく見え、春には花を楽しむ等、地域の人にも親しまれています。(山科区)	17	①
129	三宮神社のムクノキ		三宮神社のムクノキは、幹周が5mもある巨木で、樹齢は300年以上といわれています。(西京区)	17	①
129	仁和寺の御室のサクラ		仁和寺にはサトザクラが約200本植えられています。ツツジのように根元から枝を張り多くの花をつけるため、「お多福桜」と呼ばれています。(右京区)	17	③
129	辛味大根		辛味大根は小さくて強い辛味のある大根です。北区大北山(原谷)が原産で、薬味として使われます。	17	③
129	田中とうがらし		田中とうがらしは明治初年に栽培が始まったといわれています。辛味がないのが特徴で、焼きとうがらしや雑魚煮、天ぷら、佃煮等に使われます。	17	③
137	白川子供まつり		白川子供まつりは、次世代を担う子どもたちが楽しみながら川の生きものや現状について学ぶ場となっています。(東山区)	16	②
137	伏見濠川の柳並木		水運と酒造りのまちとして栄えた伏見の濠川沿いには柳並木が続いています。柳と酒蔵を背景に船が行きかう景色は、伏見を代表する風景となっています。(伏見区)	16	③
137	畑菜		畑菜は初午の日に食べる伝統があり、昭和30年代までは広く栽培されていましたが、現在は減少しています。おひたしやからし和え、煮物に使われます。	16	③
137	堀川ごぼう		堀川ごぼうは直径が約8cmと太く、先の方は松の根のような形をしています。京都の正月料理である、中に肉等を詰めた鑄込みに使われます。	16	③
141	厳島神社(雲ヶ畑)のスギ		古い歴史を持つ厳島神社の本殿付近には多くのスギの大木が生育しています。中には樹齢400～500年といわれているスギもあります。(北区)	15	①
141	今宮神社のムクロジ		今宮神社のムクロジの大木です。秋に美しく黄葉し、神社周辺の景観に彩りを添えています。(北区)	15	①
141	古知谷のカエデ		イロハモミジの巨木で、幹に多数の支根がからみつく異様な形をしており、古知谷でも最大で最古の株と考えられています。(左京区)	15	①
141	知恩院のムクロジ		ムクロジの巨木で、江戸時代初期に植栽されたと考えられています。分布の北限に近いところで樹高約20mと大木になることはまれです。(東山区)	15	①

順位	名 称		説 明 文	投票数	投票時の区分
		選定			
141	上桂御霊神社のクスノキ		樹齢130年といわれるクスノキで、樹勢は良好です。地域の人々に親しまれている神社の森の象徴となっています。(西京区)	15	①
146	天寧寺のカヤ		樹高は14mになり、市内有数のカヤの大木です。幹にある傷痕は、1788年の大火で本堂が類焼した時に受けた損傷といわれています。(北区)	14	①
146	雨寶院の時雨の松(アカマツ)		参詣の折りに、にわか雨をマツの下でしのいだことから「時雨の松」と呼ばれており、雨寶院のシンボリック的存在です。(上京区)	14	①
146	白峯神宮のオガタマノキ		樹齢は数百年と考えられているオガタマノキで、樹高は約16mになり市内に多く生育する本種の中でもこの木が最も大きなものです。(上京区)	14	①
146	由岐神社のスギとカゴノキ		スギは大きいもので樹高が約49m、カゴノキは樹高が約19mにもなり、特にカゴノキは分布の北限に近いものとしては最大規模の株です。(左京区)	14	①
146	安祥院の八重のヤマザクラ		安祥院の八重のヤマザクラです。一時期衰弱して心配されていましたが見事に再生し、毎年4月上旬に可憐な花を咲かせています。(東山区)	14	①
146	新日吉神宮のスダジイ		新日吉神宮にあるシイの大木です。幹周は4m、大きな根が周囲を取り囲むような姿をしており雄大な樹形をしています。(東山区)	14	①
146	東福寺のイブキ		樹高約17m、幹周約3mのイブキで、江戸時代には既に古木として知られていました。東福寺の歴史と文化を理解する上で欠かせないものです。(東山区)	14	①
146	梨木神社のハギ		梨木神社のハギは400～500本あるといわれています。萩まつりで開かれる句会では、句を記した短冊が花の咲くハギの枝に結わえられます。(上京区)	14	③
146	青味大根		青味大根は尾部が1～2箇所曲がった形をしています。味噌漬や味噌、もろみ大根等に使われます。	14	③
146	うぐいす菜		うぐいす菜は江戸時代中期に現在の中京区神泉苑町で生まれたといわれています。主に味噌だねとして使われます。	14	③
146	茎大根		茎大根は約300年前には本市で広く栽培されていたといわれています。左京区松ヶ崎で現在も栽培が続けられており、漬物に使われます。	14	③
146	柗野ささげ		マメ科の柗野ささげは、他のささげよりも長く、三尺ささげとも呼ばれます。現在は北区上賀茂で栽培され、ごま和えや天ぷら、煮つけ等に使われます。	14	③
146	松ヶ崎浮菜かぶ		松ヶ崎浮菜かぶは、古くから左京区松ヶ崎等で栽培されてきました。現在は北区上賀茂で栽培されており、煮物や漬物に使われます。	14	③
159	柗野のチリツバキ		民家に生育しているチリツバキで、毎年4月には赤と白の見事な花が咲きます。樹高は約9mになり、全国的に見ても有数の規模のツバキです。(北区)	13	①
159	武信稲荷神社のエノキ		神木として祀られている樹高は約23mのエノキで、エノキとしてはやや小さいものの、市街地に残された数少ない大木として市民に親しまれています。(中京区)	13	①
159	新熊野神社のクスノキ		樹齢900年以上といわれるクスノキで、安産の神様として知られています。樹勢が旺盛で、今熊野一帯を代表するシンボルといえます。(東山区)	13	①
159	養源院のヤマモモ		豊臣秀吉の御手植えといわれるヤマモモの古木で、手厚く保護されています。大地に大きく根を張る姿は風格があり、訪れる人に歴史を感じさせます。(東山区)	13	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
159	宇賀神社のムクノキ		樹齢約500年といわれるムクノキで、遠くからでもすぐわかるほど大きく風格のある姿をしています。(南区)	13	①
159	片波西谷のトチ		片波西谷林道の終点に生育するトチです。樹齢数百年といわれており、枝の上からヒノキなど他の木が生えています。(右京区)	13	①
159	正法寺のカヤ		正法寺が創建された1494年に植えられたものといわれています。樹高21mになる巨木で、カヤとしては京北地域で最大です。(右京区)	13	①
159	白山神社のカシ(ツクバネガシ)		樹高18m、幹周約8mになるカシの巨木で、根元の空洞には白山神社の使いであるへびが住んでいたと伝えられています。(右京区)	13	①
159	金札宮のクロガネモチ		大きなクロガネモチで樹高は約11mになります。秀麗な樹形をもち、樹勢も旺盛で、冬には枝先に見事な赤い実をつけます。(伏見区)	13	①
159	三栖神社のイチヨウ		三栖神社のイチヨウは、樹高23m、幹周約4mで、地上2.5m付近で2本に幹分かれしており、樹形の美しい巨木です。(伏見区)	13	①
159	久多オグロ坂の森		久多オグロ坂の森はクリやミズナラ等の落葉広葉樹林となっており、希少なヒサマツミドリシジミの幼虫の食草であるウラジロガシも多く見られます。(左京区)	13	①
159	京うど		京うどは、江戸時代に伏見区桃山で考案された方法で栽培されており、茎が白く、太く短い形をしています。酢の物やきんぴら、うま煮等に使われます。	13	③
171	総見院のワビスケ(ツバキ)		ワビスケとはツバキとチャノキの雑種で、古くから茶花として好まれています。ワビスケとしては日本で最古の木といわれています。(北区)	12	①
171	霊鑑寺の日光(ツバキ)		日光(じっこう)は雄しべが小さな花弁状になって円形にまとまるカラ咲きのツバキで、樹高は約7m、幹は枝分かれし胸の高さでは10本の太枝に分かれています。(左京区)	12	①
171	若宮八幡宮のカツラ		若宮八幡宮にあるカツラは、市街地では数少ないカツラの大木で、広い境内の中でのびのびと成長しています。(山科区)	12	①
171	華山寺のケヤキ		華山寺の北の塀際にそびえるケヤキです。雄大な姿は周辺からよく見えるため道しるべとなる等、地域の人に親しまれています。(山科区)	12	①
171	嵯峨越畑北ノ町のサザンカ		家屋の敷地内にあるサザンカは、家屋が建てられた1657年からある木といわれており、毎年可憐な花を咲かせています。(右京区)	12	①
171	慈眼寺のイチヨウ		慈眼寺裏山のイチヨウは、幹周3.8m、樹高30mの大木で、黄葉の景色を楽しんだり銀杏をひろうため、多くの人を訪れます。(右京区)	12	①
171	清凉院のサルスベリ		清凉院のサルスベリは、自然な樹形を活かして手入れされており、8月末に見頃を迎える赤い花は道行く人にも親しまれています。(伏見区)	12	①
171	京せり		京せりは湧水の多い低湿地等で古くから栽培されてきました。現在は下京区や南区で栽培され、おひたしやごま和え、椀だね等に使われます。	12	③
179	大宮南田尻町のヤマザクラ		民家で大切に育てられたヤマザクラです。樹形が美しく、通りからもよく見え、地域の人からも親しまれています。(北区)	11	①
179	招善寺のハクモクレン		招善寺のハクモクレンです。4月には白い卵形の花が咲き、大勢の観光客が訪れる花の名所となっています。(北区)	11	①

順位	名 称	選定	説 明 文	投票数	投票時の区分
179	菅大臣神社のイチョウ		菅大臣神社の3本のイチョウです。樹齢約200年ともいわれる大木が並び立っており、町中の貴重な緑となっています。(下京区)	11	①
179	光福寺のクスノキ		光福寺の境内を取り囲むように育つ数本のクスノキです。いずれも大木で伸びやかに広がった枝が天を覆っており、光福寺の象徴的な存在となっています。(南区)	11	①
179	斎宮神社のムクノキ		歴史ある神社の森を代表するこのムクノキは、板根が大きく発達した大木で、地域の人々に親しまれています。(右京区)	11	①
179	福德寺のサクラ		樹齢約400年といわれるヒガンシダレの古木です。「かすみさくら」の愛称で親しまれており、古くから福德寺のシンボルとなっています。(右京区)	11	①
179	東寺のツツジ等の植物		東寺では、4月下旬から5月上旬にかけて、ひょうたん池の周りで美しく咲くツツジやシロフジ等を見ることができます。(南区)	11	③
186	KKR京都くに荘のムクノキ		樹高は20m、幹周は約7mになるムクノキです。堂々とした樹形は市民の憩いの場となっている鴨川の河川敷からもよく見えます。(上京区)	10	①
186	古義堂のクロマツ		樹高約7m、幹周約1mのクロマツは、歴史ある白壁の土蔵とともに歴史ある街並みに調和しており、地域の象徴的な景観となっています。(上京区)	10	①
186	宝泉院のゴヨウマツ		樹高は11m、幹周は約4m、樹冠幅は最大14mになるゴヨウマツの大木で、樹勢も旺盛です。(左京区)	10	①
186	浄禅寺のクスノキ		浄禅寺のクスノキの大木です。樹高が高く千本通からもよく見えます。(南区)	10	①
186	印空寺のタラヨウ		印空寺のタラヨウは、樹高は約15m、樹齢300年ともいわれている大木で、現在でも生長しています。(右京区)	10	①
186	日吉神社のケヤキ		日吉神社の創建当時から生育しているといわれているケヤキで、樹齢約800年、樹高21mの大木です。(右京区)	10	①
186	修学院離宮庭園		修学院離宮庭園の中離宮と下離宮には隣接して棚田が広がっており、全国でも珍しい農の風景を取り込んだ庭園となっています。(左京区)	10	③
186	醍醐山の森(照葉樹林、サクラ)		醍醐山は信仰の場であり山の自然には手加えられておらず、シイやカシ等の照葉樹林が残っています。またサクラの名所としても親しまれています。(伏見区)	10	③
186	京みょうが		京みょうがは、江戸時代に伏見区桃山で栽培方法が考案されたとされており、みょうがごはんやみそ汁の具、造りのあしらい、天ぷら等に使われます。	10	③
195	満足稲荷神社のクロガネモチ		満足稲荷神社のクロガネモチは、樹齢400年といわれており、1本の大幹から8本に幹分かれする特徴的な姿をしています。(左京区)	9	①
195	聖三一幼稚園のイチョウ		防火樹として移植されたイチョウで、夏には葉を旺盛に茂らせて木陰を提供し、秋にはたくさんの銀杏を实らせる等、園児たちに親しまれています。(中京区)	9	①
195	八幡宮のスギ		樹高32m、幹周5.8mになる八幡宮のスギで、京北第三小学校と弓削地区の象徴となっています。(右京区)	9	①